

変えよう鎌ヶ谷!市民が主役 県政通信

千葉県議会議員

岩波はつみ

発行：2023.07.30 No.64 (通算)
発行者：千葉県議会議員 岩波初美

■岩波初美事務所■

〒273-0124 鎌ヶ谷市中央 1-1-34 前田ビル 3F
電話 047-445-5780 FAX 047-445-5790
メール kamagaya@iwanamihatsumi.com
活動ブログ <http://iwanamihatsumi.com>

県と鎌ヶ谷市の連携をどうつくる？
去る4月、2度目の県議選挙翌日、熊谷知事から激励の架電。「千葉県にとって、鎌ヶ谷市は重要な位置にあるので、協力体制とっていきましよう。」と。是非とも！ その2日後、鎌ヶ谷市秘書課を訪問し、地元県議と市長との定期的な情報交換会を持っていただくよう依頼した。しばらくしての返答は、「定例の意見交換会は日程の調整が難しい。今後、必要が生じた場合には声をかけるかもしれませんが」との返答。あれから3か月たつが、どうも市長にとっての必要はないらしい。



駅前開発 今度こそ「鎌ヶ谷市が買って活用して欲しい」 新鎌ヶ谷駅南口 県有地残り2ヶ所、広場&企業活動拠点を！

■駅前の民有地を購入決定した柏市

昨年12月、柏市は、今後のまちづくりの方向性を探るため、地権者や鉄道会社などつくる「柏駅東口未来検討委員会」を設置した。(1)魅力がある(2)回遊性が高い(3)緑豊かな空間を備えた、目指すべき駅前像をまとめた。

太田市長は「地権者からタワーマンション(建設)もあり得ると聞いた」と明かし、「全く知らない人に売却されてしまうと、市がまちづくりに関与できなくなってしまう」と危機感を募らせた。(2023年6月7日東京新聞)

■駅前県有地を民間に売却の鎌ヶ谷市

一方で同時期、鎌ヶ谷市は新鎌ヶ谷南口の県有地 7,000㎡(A)を「賑わいに資する活用を」と県に要望を伝え、購入せず民間への売却を求め、今年3月、令和8年度完成のマンションと商業施設の建設が決定した。

確保した駅南北自由通路(8m幅)はもともと鉄道会社が設置希望していたものであり、市が関与しない駅前開発となりそうだ。

■市が関与できる県有地は残り2カ所

県が鎌ヶ谷市の意向を尊重して、売却方針を決める県有地は残り2ヶ所。交番と線路の間の1,900㎡(斜面地 B)、イオンと線路の間の560㎡(三角地 C)。先行売却した7,000㎡と違い、活用には工夫が必要で、鎌ヶ谷市の腕の見せどころとなる。

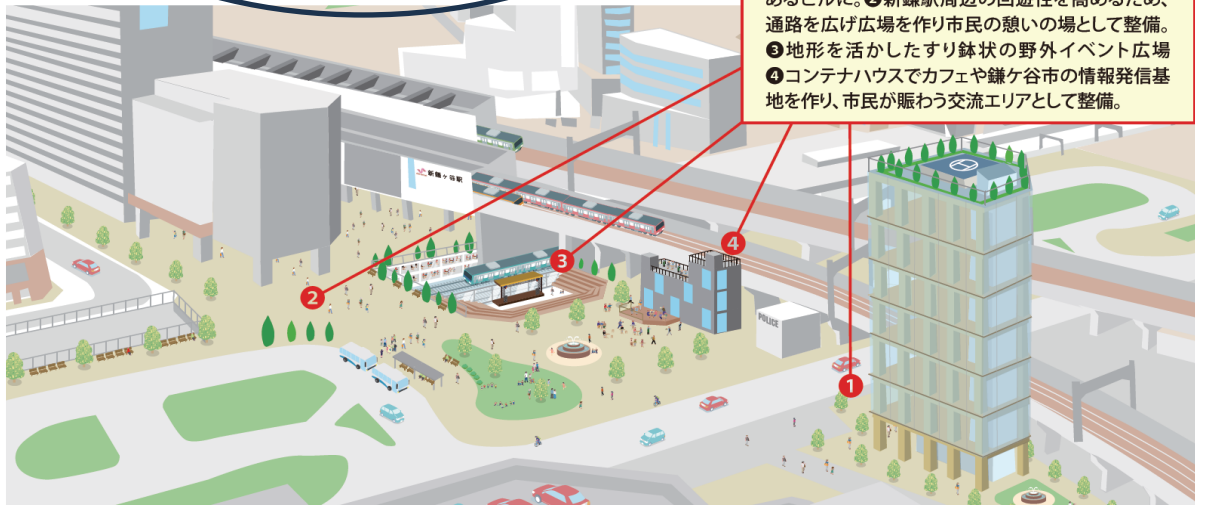
■今度こそ市が購入し意思をカタチに

令和8年度完成予定のマンションと商業施設は、残念なことに幹線道路に接続せず、しかも東武線線路で分断されている。人の流れを作り出すには、市は真ん中 1,900㎡(B)の土地を使い、線路上に蓋をかけ、広場として公共空間を創出することが望まれる。

岩波はつみ県政報告会
お知らせ
日時:9月2日(土)10時~11時30分
会場:中央公民館 学習室1
参加自由

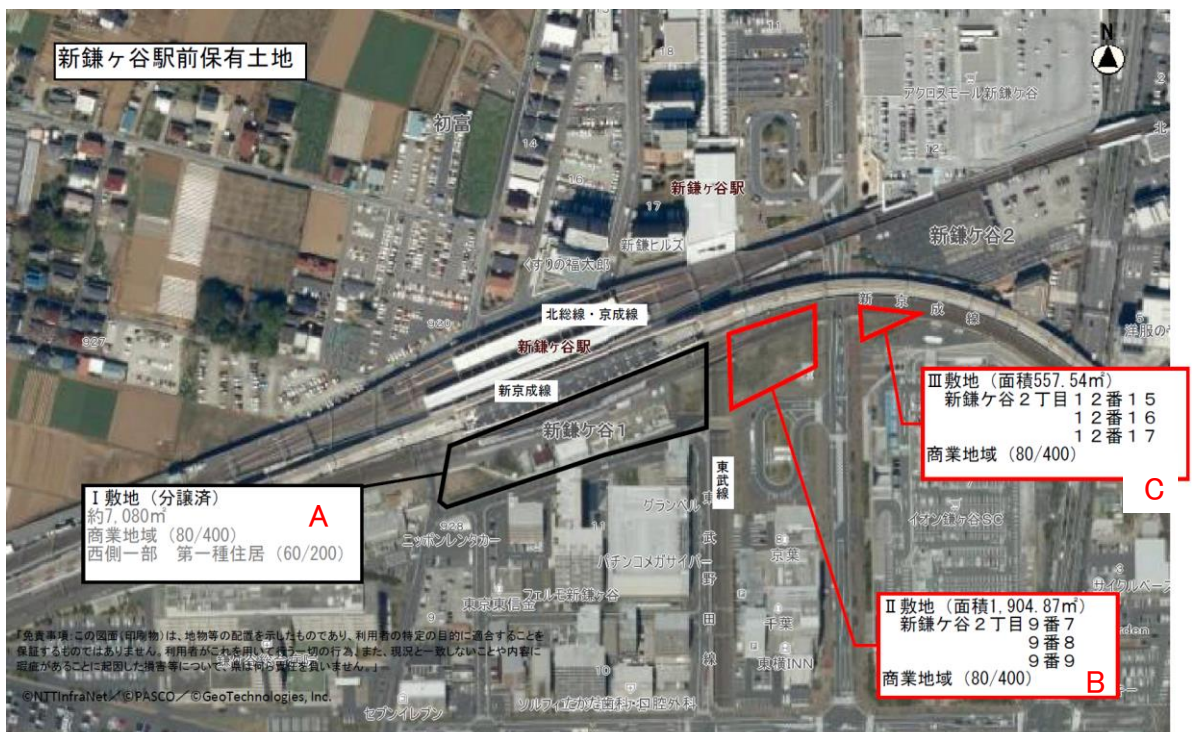
新鎌ヶ谷駅前南口 (勝手に理想図描きました)

- ①「企業活動拠点オフィス」を新鎌ヶ谷駅前に作り、古くなった鎌ヶ谷市商工会館をテナントとして移転。セミナー、イベント会場(100~150人収容、飲食可)・会議室大(50人~100人)、中(50人)、小(30人)・レストラン・テナント(事務所)・空飛ぶ車ヘリポート(エアタクシー)など最新設備と木の柱を使った話題性のあるビルに。
- ②新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性を高めるため、通路を広げ広場を作り市民の憩いの場として整備。
- ③地形を活かしたすり鉢状の野外イベント広場
- ④コンテナハウスでカフェや鎌ヶ谷市の情報発信基地を作り、市民が賑わう交流エリアとして整備。



▲理想図作成:アート&デザインタッグ合同会社

▼千葉県提供地図



新鎌ヶ谷駅前保有土地

I敷地(分譲済)
約7,080㎡
商業地域(80/400)
西側一部 第一種住居(60/200) A

II敷地(面積1,904.87㎡)
新鎌ヶ谷2丁目9番7
9番8
9番9
商業地域(80/400) B

III敷地(面積557.54㎡)
新鎌ヶ谷2丁目12番15
12番16
12番17
商業地域(80/400) C

「免状事項:この図面(印刷物)は、地物等の配置を指示したものであり、利用者の特定の目的に適合することを保証するものではありません。利用者がこれを以て一切の行為(また、異議と一致しないことや内閣に保証があることに起因した損害等)について、責任を負いません。」



【6/18~24 鎌ヶ谷市北千葉道路地下化で街づくりの会主催 北千葉道路パネル展】

将来の土地活用、市街地の拡大を目指す鎌ヶ谷市にふさわしい【北千葉道路】を求めて。

- 市に意思があれば道路の形は変えられる。
- 科学データに基づく意思決定を行っていただかねば困る。
- 6月鎌ヶ谷市議会、頑迷さ際立つ鎌ヶ谷市に憂慮。

去る6月28日、伊藤仁市議会議員の議会質問への市答弁が、不確かな数字と理由なく拒否する頑迷さに危機感を覚え、7月14日、県の北千葉道路責任者に対して、市議会答弁内容の事実確認を求めた。以下結果。

①「計画実現は困難」鎌ヶ谷市答弁
他の例では、地下構造は高架構造の2~3倍の工事費がかかり、計画実現は困難となる。

①「この数字に関知していない」県見解
このような数字は初めて見た。事業者である県は、この数字に一切関知していない。

②「計画変更の意思なし」鎌ヶ谷市答弁
2月県議会（質問者は私）において、「市から計画変更の要請があれば、その事情をうかがった上で適切に対処する」と答弁していたが、本市では計画の変更について考えていない。また、千葉県からも計画変更については考えていないと伺っている。

②「市の意思なしにはできない」県見解
鎌ヶ谷市から計画変更は考えていないとの連絡があったので、では県は対応しないと述べただけ。県議会答弁に変更はない。

目撃者である地方議員だからこそすべきことがある。

～児童相談所のあり方を考える地方議員懇談会を発足 6月25日～



今やらねばいつやる？事実の調査と公表を

議員の任期は4年間。その間にカタチあるものを残すために働く。「証拠もない、実害もない、過剰な虐待疑いにより、親子分離される事例が相次いでいる。」現実の目撃者となる我々地方議員だからこそ、担う必要のある児童相談所行政の改革。国連から勧告された3年以内の法改正を実現させるには、現行法の下で起きている現実を集め公表すること。全国超党派40名で6月地方議員団体を立ち上げた。

児童相談所のあり方を考える地方議員懇談会へのお誘い【抜粋】

2023年6月1日 発起人代表 千葉県議会議員 岩波初美

●対応は4倍に、死亡事例は減らず
虐待相談対応件数はこの10年間で4倍に増え、一時保護されるお子さんの数は2倍に増え、その一方で、虐待で死亡するお子さんの数はこの10年間で毎年50人前後（全国統計）と横ばいで推移しています。危険なひとつの家族を探し出すために99家族を犠牲にしているが、結局、子どもの死亡を抑制することに成功していない、これが実情です。

虐待親探しの網の目を張り巡らしても、必要なケースへの介入判断が遅れ死亡に至る事例の一方で、強引な虐待親レッテル貼りが発生し、誤認による親子分離、自由と人権を軽視した公的機関の対応によって崩壊に至る家族が後を絶たず急増しています。

●法改正をせよとの国連勧告

2019年と2022年の国連人権委員会から、証拠なし同意なしで親子分離をしている日本、親や子に反論できる公正な機会が与えられていない日本は、先進国としてはあるまじき甚大な人権侵害の中において、3年以内に法改正をするよう勧告を受けてきました。

特にターゲットとなっているのが、子育てに何らかの困難を抱える母親です。反省が足りない、子を監護できる状況にないという主観的表現で、親子を切り離しているのです。母親を責め孤立させることなく、励まし手助けすることによって子の成長を見届けていくことが求められます。我々地方議員は、国会議員と共に法制度の改正を急がねばなりません。（続く）

岩波初美(イワナミ ハツミ)経歴

- 1959年（昭和34年）山梨県生まれ 鎌ヶ谷1丁目在住
- 夫・夫の母・子ども3人・孫4人（岐阜県/大阪府在住）
- 千葉大学教育学部卒業、千葉工業大学大学院修士課程修了。
- 大学卒業後、生活協同組合職員8年、鎌ヶ谷市議会議員4期。NPO法人役員、会社役員を経て、アクアライン800円提言・実現。千葉工業大学特別講義講師11年間務める。鎌ヶ谷市長選挙に3回挑戦。
- 現在 2019年4月より千葉県議会議員、知的障がい者グループホーム職員、NPO法人元気になるう福島理事、児相と親子の架け橋千葉の会世話人、児童相談所のあり方を考える地方議員懇談会代表



2023年7月19日@議員会館
国会議員で構成する「児童の養護と未来を考える議員連盟」の長島昭久代表と面会し、国会議員の視点、地方議員である我々の視点を交換し、今後の連携方法を打ち合わせた。